

近世語における副詞 「どうせ」「どうで」の意味用法

林 禎 映

1. はじめに

「どうせ」は近現代語において話し手の否定的評価^{注1}を表す副詞であるが、その確例は近世語から確認できる。一方で、同じ近世において当時の「どうせ」に近い意味用法を持つと見られる語に、「どうで」がある。『言海』（1889～91、706頁）を見ると、次の(1)のように「どうせ」と「どうで」が同じ意味で使われていたことが窺える。

- (1) a. どう-せ（副詞）何レニシテ。ツマリ。ドウデ。「一勝タレヌ」
b. どう-で（副詞）何レニストモ。ツマリ。ドウセ。「一出来ヌ」

また、この「どうで」も「どうせ」と同様、近世以降から用いられる副詞である。これは「どうせ」と「どうで」の両者に共通する不定語の「どう」の形^{注2}が中世後期以降定着したことと関係している（柳田1978、荻野2003）。では、「どうせ」と「どうで」は近世資料においてどのように用いられていたのだろうか。

「どうせ」と「どうで」の近世語の意味用法についての先行研究は、辞書における記述を除けば、管見の限り見当たらない。また、例えば、『江戸語大辞典』（1974）では「どうせ」は「どうするにせよの意」（695頁）を表し、「どうで」については「どうであれ」の略（696頁）としており、『江戸時代語辞典』（2008）では「どうせ」「どうで」は掲載されていない、といったように、辞書^{注3}においても詳細に記されていないのが現状である。ただし、『日本国語大辞典』（第二版、2001）には「どうせ」について近世後期の用例が挙げられており、比較的詳しい意味記述^{注4}が見られるが、その記述は現代語の「どうせ」の記述と一括されており、実際、近世語の「どうせ」が現在のような意味用法で用いられていたかどうかについては検討の余地がある。さらに、『日本国語大辞典』には「どうで」の立項もあるが、「どうせ」の意味にそれぞれ対応するという記載のみであり、両者の意味上の関係や使用状況については触れられていない。

本稿では近世語における「どうせ」と「どうで」の用例を調査し、その意味用法を明

らかにすることを目的とする。本稿の2節では近現代語における「どうせ」の意味的、構文の特徴を捉えなおし、また、3節では2節で示した近現代語の状況を踏まえ、近世期における「どうせ」の用例を、同時期の類義語「どうで」と併せて分析する。最後に4節を本稿のまとめとし、今後の課題を述べる。

2. 近現代語における「どうせ」の意味用法

次節で近世語の用例分析に入る前に、近現代語における「どうせ」の意味用法について確認する。近現代語の「どうせ」の意味上、構文上の特徴についての先行研究は多く（小矢野2000、今西2002、菊地2005、有田2006など）、その意味用法の概略が明らかにされている。副詞「どうせ」は近現代語において、(2) aのように主節に使われている例もあれば、(2) b・cのように従属節に使われている例もある（例文中の従属節の接続形式に波線を施した）。

- (2) a. 「ふつうだったら、付き合ってる男の家庭事情までいちいち話さないスよ」「かもな。ま、どうせ半分くらいは、俺を安心させるためのパフォーマンスみたいなもんだよ。俺の世話は焼いてても、自分は自分で男と楽しくやってる、だから大丈夫。…」
（村山由佳・天使の梯子・2004）
- b. 青紫は、簡易炊事場に立つと、お湯を沸かし始める。「あ、あの、お構いなく」
冴葉が言うと、青紫は、「どうせ自分も飲むから、気にしないでー」と応えた。
「捜査の方は、順調なの？」青紫は、冴葉の正面に座ると、穏やかな調子で語り掛けてくる。
（秋月涼介・紅玉の火蜥蜴・2004）
- c. 秋葉さんとも相談してあっちこっちに声をかけたら、こんなに集まっちゃったの」能勢夫人は笑いながら答えた。「逸郎がね、どうせ子どもを集めてやるなら何かイベントつきがいいって言って、今、タイムカプセルを埋めようとしてるところ」
（森谷明子・れんげ野原のまんなかで・2005）

また、先行研究の分析では主に、「どうせ」が用いられる構文上の特徴（主文に現れるか、従属節に現れるか、そして従属節の場合にはカウ節かナラ節か、といった点）と、否定的評価が読み取れるか否かの意味上の特徴が記述されてきた。しかし、「どうせ」の意味については、「どうせ」に二つの意味を認め、その相違がマイナスの評価の有無にあると捉える立場と、「どうせ」の二つの意味に共通する意味の特徴を認めている立場の二つの見解がある。

前者の立場をとるものに小矢野（2000）がある^{註5}。小矢野は、現在の「どうせ」について、「マイナスの評価的な意味を持った順接確定条件づけの機能を持ち、同

様の機能を読みとることのできる連文機能を構成するものと、評価的な意味はないが、順接仮定条件づけ機能がやきつけられた「はしより」の機能を持つものの二通りの意味・機能に区別されるべき多義語である」と結論づけている。ここでいう「はしより」とは、工藤（1982）の用語で、「どっちみち」のように当該事態の内容を短くまとめて言うことを表す。しかし、次の例はその主張に反する例と見られる。

- (3) a. 寺島から横須賀まで、およそ五里の道のりだった。「それじゃどうせついでだから、横須賀に寄らせてもらうかな」

（結城昌治・大江戸犯科帖・2003）

- b. いくら教師が子ども好きでも、大人に評価されないのは切ないものだ。この時、立派な者は「子どもの生き生きした顔こそわが生きがい」と悟りの境地に入り、だめな者は「どうせ誰も評価してくれないのなら適当でいいや」となる。授業で学校が選べるか、授業の良し悪しが、評価の対象とならない。

（森口朗・授業の復権・2004）

(3) aのように順接確定条件節（カラ節）でもマイナスの評価的意味が読み取れない場合もあれば、(3) bのように順接仮定条件節（ナラ節）でも「はしより」の機能ではなく、マイナスの評価的意味が読み取れる場合もある。

後者の立場をとるものに菊地（2005）と有田（2006）がある。近現代語の「どうせ」の意味用法について論じた拙稿（林2014）では、菊地（2005）、有田（2006）による説に従い、「どうせ」の使用状況を調べ、改めて構文的条件と否定的評価の意味との関わりについて考察した。その考察結果を次の（4）に示す。

- (4) a. 近現代語における副詞「どうせ」は、主節に使われても従属節に使われても当該事態（P）について「どのようにしても（ああしても、こうしても）、その結果は同じくPになる」という基本的意味を持つ。従来の研究で「期待しない、望ましくない、諦め・軽蔑などの気持ち、マイナスの評価的意味」などと記述されている否定的評価は、その基本的意味から派生したものとみなす⁶。
- b. 構文的条件によってその基本的意味が否定的評価の意味として読み取れるか否かという違いが出てくる。主節に現れる「どうせ」には、原則的に否定的評価が読み取れるが、従属節に現れる「どうせ」において否定的評価が読み取れるか否かは文脈的に（語用論的に）決まると見られる。

要するに、「どうせ」が否定的意味を表すかどうかは、主節に現れるか従属節に現れるか、という構文的条件の違いによる影響も受けているとは思われるが、根本的には修

飾する事態にどのような意味内容が現れるか、という語彙的な面による影響の方が大きい。また、先行研究でいう否定的評価の意味の有無による「どうせ」の二つの用法を上(4)の立場から捉えなおすと、いずれの用法にも上(4) aに挙げた基本的意味があり、「どうせ」が修飾する事態の語彙的な面によって否定的評価を表すかが決まるといことになる。したがって、工藤(1982)と小矢野(2000)が指摘した「はしより」の用法は、基本的意味は持つが、否定的評価は持たない例となる。しかし、近現代語の「どうせ」においては「はしより」の用法の例は僅かで、大部分の例は話し手の否定的評価を表している用法で用いられているという使用傾向が見られる(小矢野2000、林2014など)。

以上の点を踏まえて、次節から具体的な例を挙げながら、近世期における「どうせ」と「どうで」の意味用法について考察する。

3. 近世語における「どうせ」と「どうで」の用例分析

次の<表1>は、近世期における副詞「どうせ」と「どうで」の用例分布を、時期、地域、資料別に示したものである(調査資料については稿末に示した)。今回の調査で得られた用例は「どうせ」が全46例、「どうで」が全209例である^{注7}。

<表1>近世期における副詞「どうせ」と「どうで」の用例分布

時期	資料		どうせ		どうで	
			会話文	地の文	会話文	地の文
前期上方語	浮世草子		1	—	1	—
	浄瑠璃	世話物	—	—	8	—
		時代物	—	—	6	1
	歌舞伎	世話物	—	—	8	—
		時代物	—	—	1	—
	噺本		—	—	2	1
後期上方語	浄瑠璃	世話物	—	—	2	—
		時代物	—	—	9	1
	歌舞伎	世話物	—	—	—	—
		時代物	—	—	12	—
	噺本		—	—	15	1
	随筆		—	—	—	2
	洒落本		—	—	24	3
	滑稽本		—	—	3	—
後期江戸語	歌舞伎	世話物	—	—	9	—
		時代物	—	—	5	—
	噺本		2	—	17	2
	黄表紙		—	—	3	—
	洒落本		3	—	19	—
	滑稽本		19	1	16	—
	人情本		20	—	38	—

上の<表1>からは、「どうせ」と「どうで」の両者とも会話文中の例が9割以上（それぞれ46例中45例、209例中198例）を占めていることがわかる。また、「どうせ」は、前後期の上方語資料においてはわずか1例しか見出せず、後期江戸語資料に偏って用いられていることが見て取れる。これに対して、「どうで」は近世期を通して上方語と江戸語ともに広く用いられていることが確認できる。このことから、「どうせ」と「どうで」の間には地域による使用の偏りがあったことが推察される。

次に、両者の意味用法について、「どうせ」と「どうで」が従属節内に現れるか主節に現れるかは問題とせず、それらが修飾する事態における述語と表現形式に注目して分析を行う^{注8}。具体的には、修飾する事態において共起する述語の種類（動詞述語か、形容詞述語か、名詞述語か）と、節・文末の表現形式を調べる。後者については、近現代語の先行研究で「どうせ」が、様々な表現形式のなかでも否定・推量・必要性を表すナイ・ダロウ・ネバナライなどと共起する例が多いことが知られているため、こうした表現形式と共起した例について近世期の使用状況を調べることにする。

次の<表2>に上の<表1>に掲げた「どうせ」と「どうで」の副詞的用法の全例（それぞれ46例と209例の合計255例）を、共起する述語や文末形式によって分類した結果を示す（形容動詞の例は、形容詞の例に計上してある）。

<表2>「どうせ」と「どうで」の修飾事態における共起状況

	どうせ									どうで								
	動詞	形容詞	名詞	φ	否定	推量	否定推量	必要性	その他	動詞	形容詞	名詞	φ	否定	推量	否定推量	必要性	その他
前期上方語			1		1					21	1	6	12	1	6	5	4	
後期上方語										42	7	23	25	11	20	12	4	
後期江戸語	21	10	14	24	3	8	8	3	1	68	11	30	64	26	3	12	3	1

共起する文末形式のそれぞれの典型的な例を挙げておく。以下、用例を挙げる際は読みやすさのため、句読点やカギ括弧を付すなど、本文を改めたところがある。用例において話者は□、話者の台詞は「」、会話中の地の文は《 》、引用者注は[]で表し、用例の所在はジャンル、作品名、成立・出版年、頁の順で示した。

(i) φ

（どうせ）仲間「お心ざしはおかたじけなふござりますが、それじやおきのどくさまじやわいな。北八「ハていゝわな。どふせわつちもありあはせたもんだから、あまり輕少なれど」
 （〔滑〕東海道中膝栗毛・1802～1809・444）

（どうで）髪結の亀→清兵衛「（前略）梅花の露の玉の緒も、やがて消へ行有明の、燈油も數募り、どう辛抱して見ても、どうで仕舞は心中もの、御祈念と敬て申す」
 （〔伎〕お染久松色読販・1813・229）

(ii) 否定

〈どうせ〉小萬「アレサ、左様ぢやありませんよ、お前はんは分らないよ」花雪「どうせ俺は分らねえよ」 ([人] 春色恋廻染分解・1860～65・195)

〈どうで〉見知ぬ人じやがと、其まゝ三遍廻つてしまひければ、そうれい好のおやぢ、あたまをかいて、どふで面／＼の家から出さぬものハ自由にならぬ。

(〔嘶〕 軽口独機嫌・1733・246)

(iii) 推量

〈どうせ〉北八「(前略) そりや蛇が女に見こんだ時のことだろふ。どふせそんなことであろふとおもつた」 ([滑] 東海道中膝栗毛・1802～1809・348)

〈どうで〉母御→乳母の為「こりや、乳母よ、俺はどふで今度の病氣が立出で有ふ、もし俺が死んだらば必ず此子を頼むぞよ」 ([伎] 伊賀越乗掛合羽・1776・190)

(iv) 否定推量

〈どうせ〉金七「どふも内がやかましくござんす」後家「それでも、どうせ今からお歸りはなしますめへ、お宿はへ」 ([酒] 甲斐新話・1775・82)

〈どうで〉女同士「(前略) こふ久しく来るといふも縁だろふとおもつて、異見をいつたらもふこめへとおもふが、どふでおれがいつちやア、あの子のためにもなるめへから」 ([酒] 傾城買二筋道・1798・457)

(v) 必要性

〈どうせ〉淀車「じれつたかあじれたが糸へ物もいらねへ事た」滝川「いゝにへネ、どうせお前にいはねへけりやア済ねへ事だがネ、あのね」

(〔酒〕 粹町甲閨・1778・82)

〈どうで〉「アへよしない事じゃと思ふたれど、ひとり子の事なればどふで聲御を取ねばならず、氣に好いた事ならば、」 ([浄] 夏祭浪花鑑・1745・240)

(vi) その他(「どうで」の例は判断不可の例)

〈どうせ〉つれ「コウ、横丁のとうふやへ化物が出るそうのだ」いさミ「そりやア面白へ、行て見べい」つれ「何の、よせへ、臆病なくせに」いさミ「べらぼうめ、化ものくれへ、こわい物か、どふせ今夜ひやかに行ア、廻つて見べい」

(〔嘶〕 笑語草かり菴・1836・67)

〈どうで〉友吉「コレべらばふめへ、マア宅へ這入ヨ」仲次「アレマア放しておくれヨ、どふで」 ([人] 春告鳥・1836～37・457)

上の〈表2〉からは、「どうせ」と「どうで」の後には動詞述語が現れる例が多いことが見て取れる。前後期を通して広く使われている「どうで」を見ると、動詞述語の例が21例、形容詞・名詞述語の例が7例と前者が後者より多かったが、後期には「どうで」は42例対30例、「どうせ」は68例対41例になっており、後期になると形容詞や名詞を述

語とする性質や特性を表す判断系の事態の使用例がやや増えていることがわかる。

また、否定・推量・必要性を表すナイ・ダロウ・ネバナライなどと共起している例と、これらの表現と共起していない例（上記の＜表2＞の「 ϕ 」）を比べてみると、前後期の上方語の「どうで」においてはそれぞれ16例対12例、47例対25例と前者が後者（＝ ϕ ）より多かったが、後期江戸語の「どうせ」と「どうで」においてはそれぞれ20例対24例、44例対64例と後者が前者を上回っている。

さらに、「 ϕ 」の例のなかには、動作を表す動詞述語のほかに、存在や状態を表す動詞述語や形容詞・名詞述語などの無意志的な事態が含まれている。「 ϕ 」の例を、「どうせ」と「どうで」が修飾する事態が意志的なものか無意志的なものかによって分類すると、後期江戸語の「どうせ」においてはそれぞれ6例対18例、「どうで」の各時期においてはそれぞれ3例対9例、3例対22例、13例対51例のように、いずれの場合においても無意志的事態の例が3割以上多かった。

次に、上記の＜表2＞で「その他」とした2例を除いた「どうせ」の45例、「どうで」の208例を対象に、否定的意味を持つかどうかの分類を行う。ここで言う否定的意味を表す場合とは、話し手の意図や期待に反し、思い通りにならない事態を指す。このような否定的意味の有無については、前後の文脈に語彙的に否定的な傾向（「不本意であること、仕方がないこと」など）を表す表現が現れているか否か、ということから判断する。その結果を次の＜表3＞に示す。次節で挙げる各例に否定的意味の有無を、「否定的意味あり」「否定的意味なし」として示した。

＜表3＞否定的意味を表す用例分布

	どうせ		どうで	
	否定的意味あり	否定的意味なし	否定的意味あり	否定的意味なし
前期上方語	—	1	13	15
後期上方語	—	—	52	20
後期江戸語	30	14	78	30

以下では、上方語、江戸語の順で実例を見ていくが、前期上方語資料で多用されている「どうで」を先に挙げ、次に「どうせ」を挙げながら分析することにする。

3. 1 上方語資料における使用状況

3. 1. 1 前期上方語

まず、前期上方語の「どうで」の例を見る。次の(5)を見ると、(5) a・c・dと(5) eは動作を表す動詞述語を修飾しているが、前者の三例は「まい」や「う」のように推量形式と、後者は「ねばならない」のように義務や必要性を表す形式と共起している。

(5) bは他の用例と異なり、「どうで」の後に存在動詞（「ある」）が現れており、状態性を持つ例である。意味的には、(5)に挙げたいずれの場合も、「どっちみち」に相当し、話し手は「どうで」の後続事態について「どういう場合でも、結局こうだ」と捉え、厳然とした事実だと結論づける言い方をしており、そこから否定的評価を読み取ることはできない。

【「どうで」の前期上方語の例】

- (5) a. 明日よりは我もうはさのかずに入、世にうたはれんうたはゞうたへ、うたふをきけば、どうで女はうにやもちやさんすまい、いらぬものじやと思へ共、げに思へ共なげゝ共、身も世もおもふまゝならず、

（〔浄〕曾根崎心中・1703・316、否定的意味あり）

- b. そは／＼せずとまたんせと引もどせばエゝじやまな、其咄はいつでも成きうなことじやつてくれと、ふりきれば、だきとめて「これどふぞいの、何がそれ程いそがしい、どふで心に一物有、わけを聞ねばやりはせぬ」と見せにとんとだきすへられ、ハテにもつさへおろしたに一もつが有物か、気遣そふなにみじかふ咄して聞せふ、

（〔浄〕丹波与作待夜のこむろぶし・1707・1050、否定的意味なし）

- c. 問ひもせぬに三太郎「旦那様はたった今湯屋へ」といへば、紺屋の妻「オゝ／＼どうで湯か茶か飲みにてあらう」

（〔浄〕心中重井筒・1707・70、否定的意味なし）

- d. 宿の男が山上参りいたすと、言ひも果てぬに「さりと止めにせよ、鐘懸けの飛岩、取つき石の太行、勿體なやなふ」と脅せど、「浴衣菅笠も此通り」と見せければ、是非なく最早黙られぬ所と、「どふで銀で取らしてからが、錢買て持であらふによつて、そちが勝手のよいやうに、亭主、錢三百取替へて遣つてたもれ」

（〔浮〕傾城禁短氣・1711・356、否定的意味なし）

- e. 乳母→娘「(前略)とうからこなたと清七と、訳有事知つてゐる。アゝよしな事じやと思ふたれど、ひとり子の事なればどふで簞御を取ねばならず、氣に好いた事ならば」

（〔浄〕夏祭浪花鑑・1745・240、否定的意味なし）

次の(6)は前期上方語資料で確認できた「どうせ」の1例で、名詞述語文である。「どうせ」についても「どう考えても、何と言つても」のような意と解釈でき、上記の「どうで」と同様、マイナス評価を表さない。

【「どうせ」の前期上方語の例】

- (6) かふ申せば異な物でござりますが、有様が、彼方がそれ程の全盛のお身でもなけ、

れば、お前ほどの福な旦那を取放してはと、欲でおつしやる共存じませふが、皆
お客方から、明日をお頼みなされて、お隙といふては微塵ない御盛のお身で、
お前お一人にあのお心遣ひは、どふせ此世ばかりの終の縁ではござりませぬ。

(〔浮〕傾城禁短氣・1711・344、否定的意味なし)

3. 1. 2 後期上方語

「どうで」は後期上方語においても、次の(7) c・eのように推量形式と共起する例
が引き続き確認できる。前期と比べて、(7) a・cのように否定形式「ない」と共起す
る例が増加している点が特徴的である。また、(7) d・eのように形容詞と共起する例
も確認できる。意味の面では、(7) bのように「どっちみち」「いずれにしても」に相
当する例も見られるが、前期上方語の(5)に比べると、(7) a・c・d・eの「おもふや
うにならぬ」、「ろくな事ではあるまい」、「治る道理がない」、「ゑらからふ[大変だろう]」
のように、話し手にとって望ましくないこと、仕方ないことである、という否定的な気
持ちが読み取れる例が目立つ。

【「どうで」の後期上方語の例】

- (7) a. [女郎が花車に正月の衣装について話す場面] 女郎「さいな、すつきりわたし
が、思ふやうにならぬわいな、わたしや、黒ちりめんの、しろあげもやうに、
しやうといへば、こちのお熊さんが、そら色ちりめんの、無地がよかると、
いゝなんす、どふで、おもふやうにならぬさかい、わたしやもふ、かまやせん
程に、どふなとなんせとうそばらが立たさかい、(後略)」

(〔酒〕月花余情・1757・112、否定的意味あり)

- b. 遊女の惣嫁「そんなら見よぞいな、ちよつとはいりなんせんか」客の太兵衛「ど
ふでもどりによろそ」遊女の惣嫁「そんなら勝手になんせ、こんやはお月さん
がよふさへさしやつた、おまへけふの髪は高ふいゝなんしたの」

(〔酒〕郭中奇譚(異本)・1769・326、否定的意味なし)

- c. 何やら二人さしむかい、人にお隠しなさるゝはどふでろくな事ではあるまい。

(〔浄〕伽羅先代萩・1785・302、否定的意味あり)

- d. イヤ、夫八病による、或八つき物か、外から身入等の病なれハ、加持きとうで
のく事も有ふが、五臓から損じて出る病き、どうで治る道理がない。

(〔噺〕慶山新製曲雑話・1800・310、否定的意味あり)

- e. 豊竹麓大夫、七十一歳にてはしかと聞て、竹本政大夫、見舞にゆきて、政「宗
兵衛殿、貴公のはしか何日めでござるそ」麓「イヤ、モウ十日めでござる」
といひければ、すこしおどけて、政「十日めハ貴公の箱場じや、どふでゑらか

らふ」といへば、**麓**「げんきよく、イヤ、これまでさへ麓じやもの、モウ峠ハ
ござるまい」 ([嘸] 麻疹嘸・1803・129、否定的意味あり)

一方で、後期上方語資料には「どうせ」の例が見出せなかった。「どうせ」の例は次節で述べる近世後期の江戸語に多用されている。

3. 2 江戸語資料における使用状況

本節では、3.1節で見た上方語資料における「どうせ」と「どうで」の使用状況を受け、江戸語資料の用例を考察する。まず、「どうで」の後期江戸語の例(8)から考察していく。共起上の特徴を見ると、(8) a・cは、(8) bの「帰る」、(8) dの「お見送り」のような動作を表す述語ではなく、それぞれ「かぎりのねへ」のような状態性述語や「素直に行く」のような無意志性述語が現れているのが特徴的である。この(8) a・cにおける状態性や無意志性を持つ述語との共起は、前述した通り、「話し手にとってどうすることもできない、仕方がないことだ」という諦めの気持ちを表す意味特徴と深く関係していると見られる。なお、(8) a・bには「事だ」「者だ」のように形式名詞で結ばれた例も確認できる。意味の面では、(8) bは三助がお客の三味に「(今流しているお撥さんは友人だから) どちらみち二人一緒に帰るでしょ」と言っている場面で、「どうで」は「どちらみち」のような意を表すが、否定的評価(例えば、「二人一緒に帰ることが仕方がない」などの意味)は読み取りにくい。また(8) dは久作が清兵衛に「ついでですから、途中までお見送り致しましょう」と言っている場面で、(8) bと同様、否定的意味は現れていない。これに対して、(8) a・cは前後の文脈から「話し手にとってどうすることもできない、仕方がないことだ」という内容と解釈できる。

【「どうで」の後期江戸語の例】

- (8) a. **文理**「それじやア猶さらかへられねへ、わつさりと笑ひ顔を見せてくん、
《とうるみごへにて、なみだふきながらいふ》 ほんに、どふでかぎりのねへ
事だ、いればいる程おもひのたねだ、さあ／＼かへろふ」

(〔酒〕傾城買二筋道・1798・460、否定的意味あり)

- b. **三味**「コレ、此人はや、おれが先へ来たものを」**ながしの男**「どつちでもいゝ、
どうで一緒に帰る者だ」(〔滑〕浮世風呂・1809～13・115、否定的意味なし)
c. **銭**「今度のかゝアめは、死霊で取殺されるは明かだ、又変助も、行末がろくぢ
やアねへのさ、人情にかけた事をして善事があるものか、どうで直すなをにや
アいくめへ」**びん**「今流行る合巻の絵ざうしに有さうな条だ」

(〔滑〕浮世床・1813・312、否定的意味あり)

- d. **清兵**「さやうござらば清兵衛は、もはやお暇仕ふ、それに付ても今に迎ひが」
久作「アイヤ、お帰りならば私が、どうで道迄お見送り」**清兵**「それは御苦勞
 御太儀ながら」 (〔伎〕お染久松色読販・1813・258、否定的意味なし)

次に、「どうせ」の後期江戸語の例(9)を見る。前述した、後期江戸語における「どうで」の使用状況と同様、(9) aの「出さねへけりやならねへ」という必要性を表す形式を伴う例、(9) bのように推量表現を伴う例などが見られる。また、(9) a・b・cのような動詞述語のほかに、(9) dの非存在を表す形容詞述語「ない」や、(9) eのような名詞述語のような状態性述語の例も見られる。意味の面では近世後期における「どうで」と同様、否定的意味を持つ例が持たない例より多く用いられている。

【「どうせ」の後期江戸語の例】

- (9) a. **女郎**「いつそ生恥をさらそうより死にていよ、どふせ此祭にやあ、ひどい法を出さねへけりやならねへといふもんだ」**伴頭**「白木稻荷の狐がしやくがおこつたとき」 (〔酒〕玉之帳・1789~1800・228、否定的意味あり)
- b. ある男、女ぼうが外に色ごとをしてゐることをかぎつけ、ある日何くハぬ顔にて、「けふ八店の衆にさそハれて、大師がハラへ行から、どふせかへりハ品川にとまるだろふ。留守をよくきをつけやれ」と言付て、
 (〔噺〕落咄見世びらき・1806・207、否定的意味なし)
- c. **水うり**「どうして汲おきの水がうられるものか」**ばゞ**「そしたら、此のこり水ウどうしめさる」**水うり**「しれた事、ぶつこぼすのよ」**ばゞ**「モイどうせぶつこぼす水だら、うらに二三盃のませてくれめさねへか、ちつぴロイたゝいたので、のどつぴこがからびあがつたモシ」
 (〔滑〕旧観帖・三編・1809~10・274、否定的意味なし)
- d. **遊女のくま**「御存の通りわが儘ものだから、どふせ男の気に入る事ちやアありませんは」 (〔人〕春告鳥・1836~37・508、否定的意味あり)
- e. **虚ろ**「餅ノヲ焼いて、おつ食らうベイとさがしごとをせるだに、何を呼べるのだア、噪噪しい」**茶め**「打つ捨つて置きねへ、どうせ仕方のねへ奴らだから」
 (〔滑〕妙竹林話七偏人・二編上・1857~63・110、否定的意味あり)

この他、後期江戸語には例(10)(<表2>の「その他」)のように、これまで見てきた「どっちみち」のような意味にも、「仕方がない」のような否定的意味にも解釈できない例がある。(10)は「今夜にでもさっそく化け物をからかいに行つて廻つて見よう」という内容で、この「どうせ」は千葉県安房郡方言に見られる「いっそのこと」(『日本方言大辞典』(1989、1634頁))のような意味に当たるものであろう。

- (10) ㊦「コウ、横丁のとうふやへ化物が出るそうだの」いさみ「そりやア面白へ、
行て見べい」㊦「何の、よせへ、臆病なくせに」いさみ「べらぼうめ、化もの
くれへ、こわい物が、どふせ今夜ひやかしに行ア、廻つて見べい」

(〔噺〕笑語草かり篋・1836・67)

なお、幕末の言語事情を反映するとされる資料のうち、管見に入ったものに『KUAIWA HEN』(1873年)がある^{註9}。そこには「どうで」の記載は見えないが、「どうせ」については次の(11)のように記載されている((11)における下線は引用者による)。「どうせ」の英文訳である(11)bから見ると、「in any case, at any rate」という「いずれにしても、どっちみち」のような意味や、「どのように」の意の「どう」と「する」の命令形の「せ」からなるとする語構成、また「lity. let it be how(it will)」のように「そのままにしておいても(そのようになるだろう)」という逐語訳が載っている。このような意味記述と(11)aの会話の例には、上記の近世後期の例で確認した否定的な内容は現れていない。

- (11) a. 26. Toki ni mō nanatsu sugi da kara, soro-soro kaēri to shimasu.
27. Naruhodo. Doko zo dē ippai nomō to omotta ga, osoku natta kara,
uchi e kaētte yarimasyō.
28. Arigatō gozaimasu ga, shikashi o kinodoku dē gozaimasu.
29. Nani, dōsē itsudemo watakushi shitori de mo ippai yarakashimasu
kara, anata ga o idé da to chōdo samushiku nakutē watakushi koso.
sono kawari ni wa, hon no ariawase dē nanni mo gozaimasen’.

(Part I・XVI・72)

- b. Dose, in any case, at any rate, probably *dō*, how, and *sē*, an imperative of *suru*, to do, lity. let it be how(it will) (Part II・101)

ちなみに、近代以降の両者の使用分布について見ると、「どうで」は明治以降の近代語にその例が数例見られるが、昭和期には例が見られなくなり、現在の東京語(共通語)では用いられていない。一方、「どうせ」は近世期において広く使われていた「どうで」に取って代わって、近代以降は共通語として広く使われている。

4. まとめと課題

本稿では、近世期における「どうせ」について、同時期に類似した用法を持つとされる「どうで」の使用実態を取り上げ、両者の近世期における使用状況と意味用法を考察

した。その結果を以下にまとめる。

- 1) 「どうせ」の初出例は18世紀初期の上方語資料に1例のみ見られ、多用されるのは18世紀後期以降の江戸語資料においてである。
- 2) 近世期において「どうせ」と似た用法を持つ「どうで」は、「どうせ」の使用より早い、17世紀末期頃から見られはじめる。近世後期には上方語資料と江戸語資料の両方に均等に分布して用いられていた。
- 3) 両者は、近世前期には推量や否定形式と共起した動詞述語の例が多く、「どっちみち」のような「どういう場合でも、結局こうだ」という意味で主に用いられていた。後期になると、推量や否定形式と共起した例の他に、語彙的に否定的な内容を表す表現（例えば「仕方ない」「ろくなことない」）、名詞・形容詞のような状態性述語や無意志性述語と共起する例が増えている。意味の面では「どうせ」「どうで」のいずれも否定的評価が読み取れる例に偏って用いられていた。

最後に、「どうせ」と「どうで」の現在の地方語における状況を確認しておく。『日本方言大辞典』（1989、1634頁）によれば、「どうせ」には「どーせ → どーせこーせ」とあり、「どーせこーせ」を見ると、「①どんなことをしても結局は。どうせ。②いっそのこと。③どうにかこうにか。かろうじて。」のように三つの意味が記されている。①と②の言い方は主に東北地方で、③は中国・四国・九州地方で使われているとされる。また、「どうで」（1636頁）には「①どうして。なぜ。②道理で。なるほど。③ → どーでこーで／どだい（土台）」とある。このうち③の「どーでこーで」には、「ものごとを強調したり、感激の気持ちを表したりする語。なんともはや。とにかく。」とあるように、現在の「どうで」には共通語の「どうせ」の持つ否定的評価を持っていないようである。

また、近代以降の「どうせ」と「どうで」の消長については、上の『日本方言大辞典』（1989）の記載にもある「どーせこーせ（どうせこうせ）」「どーでこーで（どうでこうで）」のような形式と、「どうせ」「どうで」のような単独形式との意味用法上の関連についても踏み込んで考える必要があるように思う。今後、「どうせ」「どうで」が中立的意味から否定的評価を表す用法へ偏るという変化傾向を明らかにすべく、語構成の面で両者と類似した変化過程を経て一語化したと見られる表現を取り上げ、そうした表現が通時的にどのように否定的意味を獲得していくのか、その成立過程について考察する予定である。

【注記】

- 注1 具体的には、「侮蔑または自嘲」「好ましくないこと」（以上、飛田・浅田1994）、「見くびりのムード」（杉本2000）、「たかをくくる」「自分にとって嬉しくない・面白くない・歓迎できない事柄」（以上、渡辺2001）、「価値を低く見積もる」「望ましくない」（以上、菊地2005）などと指摘されている。本稿ではこれらの指摘にある意味特徴を合わせて「否定的評価」と呼ぶ。「どうせ」の持つ否定的評価の詳細な意味特徴については菊地（2005）が詳しい（林2014の注1の再掲）。
- 注2 「どうせ」は、指示副詞「どう」とサ変動詞「す」の命令形の組み合わせからなり（『日本国語大辞典』（第二版、2001）、『大辞林』（第三版、2006））、「どうで」は指示副詞「どう」と断定の助動詞「だ」の連用形の組み合わせからなる（『江戸語大辞典』（1974））とされる。
- 注3 近世期の辞書『倭訓栞』、『俚言集覧』には「どうせ」「どうで」の両者とも掲載されていない。
- 注4 次の二つの意味が掲載されている（989頁）。
（i）一つの行為や状態が、もはや動かしがなくなっていることを容認する気持を表わす。いずれにしても。どのようにしても。どうで。
（ii）好ましくない行為、状態、判断などが、こちらの希望や意志に反して成り立ってしまうことへの、あきらめまたはふてくされた気持を表わす。所詮。結局。いずれにせよ。どうで。
- 注5 このほかに、「どうせ」に二つの意味（否定的評価の有りと無し）を認めるものとして工藤（1982）、森田（1989）、『日本国語大辞典』（第二版、2001）がある（林2014の注2の再掲）。
- 注6 「どうせ」がどのようにしてこのような基本的意味を持つようになったのかについては、通時的な観点から「どうせ」と「どうで」の出自やそれに共通して見られる語構成の面と関連づけて別稿で論じることしたい。「どうせ」と「どうで」の語構成に着目すると、それぞれ「どうせい」（どうせへ）あるいは「どうせよ」、「どうでも」との関連が考えられ、そこから副詞として一語化したものと捉えることができる。副詞「どうせ」と「どうで」の近世以降の意味用法をより正確に把握するためには、副詞化する以前の形との関連を探る必要があると思われる。
- 注7 用例調査においては、文体における使用分布を見るため、近世期の主な口語体と文語体の資料（仮名草子、浮世草子、浄瑠璃、歌舞伎、喃本、読本、黄表紙、洒落本、談義本、滑稽本、人情本の文学作品）における会話文（心内文を含む）と地の文の全体を調査範囲とした。また、用例は慣例に従い、宝暦（1751～64）頃を境にして、近世期を前期（1750年頃以前）と後期（1750年頃以降～1860年頃）の二期に区切って分析を行った。上方語資料は前後期を通して使用し、江戸語資料は宝暦年間以降の後期のものを使用した。
- 注8 近世期には従属節の自立性が高く、主節と従属節を截然と区別することが困難であることから、2節でまとめた近現代語のような、主節に現れているか否かという文中での出現位置や、従属節の種類による共起上の特徴については言及しない。
- 注9 『和英語林集成』には「どうせ」「どうで」の両者とも掲載されていない。

【調査資料】

国文学研究資料館電子資料館大系本文DBによる『日本古典文学大系』（岩波書店）と『噺本大系』（東京堂出版）所収の諸作品、国立国語研究所の「人情本パッケージ」による人情本刊行会編の6作品（仮名文章娘節用・恋の若竹・花の志満台・春色恋廻染分解・春色江戸紫・花暦封じ文）を調査した。上記以外の資料は目視で得たものである。なお、現代語の例は、国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス（中納言）」から検索したものである。

○〔浮〕世草子：好色一代男・好色五人女・好色一代女・西鶴諸国はなし・本朝二十不孝・男色大鑑（以上『近世文学総索引 井原西鶴』教育社）、傾城禁短気（『日本古典文学大系』）、○〔浄〕瑠璃：曾根崎心中・丹波与作待夜のこむろぶし（以上『近松門左衛門 近世文学総索引1・2』）、心中重井筒・夏祭浪花鑑・仮名手本忠臣蔵・義経千本櫻・摂州合邦辻・伊賀越道中雙六・源平布引滝・伽羅先代萩・新版歌祭文・鎌倉三代記（以上『日本古典文学大系』）、○歌舞〔伎〕：けいせい浅間嶽・伊賀越乗掛合羽・御摂動進帳（以上『新日本古典文学大系』）、けいせい二見の浦・けいせいぐぜいの舟・けいせい在原寺・女郎来迎柱・難波重井筒・けいせい竹生嶋・けいせい新あさまのだけ（以上『翻刻絵入狂言本集』上・下（近世文芸叢刊別巻3・4）、幼稚子敵討・韓人漢文手管始・お染久松色読販・小袖曾我薊色縫（以上『日本古典文学大系』）、○〔噺〕本：軽口機嫌囊・軽口機嫌囊・軽口五色帛・時勢話大全・時勢話綱目・曲雑話・夜明烏・庚申講・臍の宿かえ・麻疹噺・春興噺万歳・落噺千里藪・噺大全・大寄噺の尻馬初編／鹿の子餅・近目貫蝶夫婦・今歳笑・笑長者・管巻・喜美賀楽寿・鹿子餅後篇譚囊・乗合舟・笑の種蒔・無事志有意・かわ蝶児・春色三題噺初編・百福茶大年咄・落咄見世びらき・笑語草かり籠おとぎばなし・百歌撰・落噺年中行事（以上『噺本大系』）、○〔随〕筆：膽大小心録（『日本古典文学大系』）、○〔黄〕表紙：江戸生艶気樺焼（『日本古典文学大系』）、○〔洒〕落本：月花余情・陽台遺編・給閣秘言・新月花余情・聖遊廓・郭中奇譚（異本）・短華薬業・酔のすじ書・十界和尚話・南遊記・粋の曙・色深狭睡夢・北川蜆殻／粋町甲園・玉之帳・居続借金・深川手習草紙・通気粋語伝・意妓口・辰巳婦言・客物語・二筋道宵之程（以上『洒落本大成』中央公論社）、遊子方言・軽井茶話道中粋語録・青樓屋之世界錦之裏・傾城買四十八手・傾城買二筋道（以上『日本古典文学大系』）、甲斐新話（『日本古典文学全集』）、○〔滑稽〕稽本：浮世くらべ・指面草・旧観帖・狂言田舎操（以上『滑稽本集 一』）国書刊行会）、東海道中膝栗毛・浮世風呂（以上『日本古典文学大系』）、酩酊気質・浮世床（以上『日本古典文学全集』）、八笑人（『花暦八笑人』岩波書店）、七偏人（『花暦七偏人上・下』講談社文庫）、穴さがし心の内そと（『近代語研究』4）、○〔人〕情本：春色梅児誉美・春色辰巳園（以上『日本古典文学大系』）仮名文章娘節用・恋の若竹・花の志満台・春色江戸紫・春色恋廻染分解・花暦封じ文（以上『人情本集』人情本刊行会）

<辞書>『時代別国語大辞典室町時代編4（つ〜ふ）』（2000、三省堂）、『倭訓栞』（1777〜1887、谷川士清自筆本（2008、勉誠出版）、増補語林倭訓栞（1968・1973、名著刊行会））、『俚言集覧』（180末〜190初頃、自筆稿本版（1993、クレス出版）、増補版（1978、名著刊行会））、『江戸語大辞典』（1974、講談社）、『江戸時代語辞典』（2008、角川学芸出版）、『ヘボン著和英語林集成 初版・再版・三版対照総索引』（2000、港の人）、『改正増補和英英和語林集成（8版）』（1886、丸善株式会社書店）、『KUAIWA H

EN』(1873、Yokohama:Lane, Crawford & Co.)、『言海』(1889～91、ちくま学芸文庫(2004、筑摩書房))、
『基礎日本語辞典』(1989、角川書店)、『現代副詞用法辞典』(1994、東京堂出版)、『日本国語大辞典
(第二版)』(2001、小学館)、『大辞林(第三版)』(2006、三省堂)、『日本方言大辞典』(1989、小学館)

【参考文献】

- 有田節子(2005)「「どうせ」「いっそ」の分布と既定性」『大阪樟蔭女子大学日本語研究センター報告』13
有田節子(2006)「「どうせ」の意味と既定性」上田功・野田尚史編『言外と言内の交流分野 小泉保博
士傘寿記念論文集』大学書林
坂坂元(1970)「いっそ・どうせ(日本語の生態—4—)」『国文学解釈と鑑賞』35-8
今西利之(2002)「副詞「どうせ」についての覚え書き」『熊本大学留学生センター紀要』6
林昶映(2014)「近現代語における副詞「どうせ」の意味用法」『日本語学論集』10(東京大学大学院
人文社会系研究科国語研究室)
荻野千砂子(2003)「不定詞「ドウ」の発達」『語文研究』96
呉朱熙(2010)「「どうせ」の共起関係と文類型について—韓国語の副詞「어차피, 이왕(이면)」との
対照を兼ねて—」『九州国際大学教養研究』17-1・2
川瀬卓(2014)「近世における副詞「どうも」の展開」『日本語文法史研究』2
菊地康人(2005)「「どうせ」の用法の分析」『日本学・敦煌学・漢文訓読の新展開』汲古書院
工藤浩(1982)「叙法副詞の意味と機能—その記述方法を求めて—」『研究報告集3』(国立国語研究所
報告71) 秀英出版
工藤浩(1996)「「どうしても」考」鈴木泰・角田太作編『日本語文法の諸問題』ひつじ書房
小矢野哲夫(2000)「評価的な意味—副詞「どうせ」を例にして—」山田進・菊地康人・初山洋介編『日
本語 意味と文法の風景—国広哲弥教授古稀記念論文集』ひつじ書房
杉本和之(2000)「副詞「どうせ」の意味と機能」『愛媛大学教育学部紀要 第Ⅱ部 人文・社会科学』33-1
武内道子(2005)「関連性への意味論的制約—「しょせん」と「どうせ」をめぐる—」武内道子編
『副詞的表現をめぐる—対照研究—』ひつじ書房
星野佳之(2001)「「どうせ」と「せっかく」の意義—「無駄」の回避—」『清心国文』3
森本順子(1994)『話し手の主観を表す副詞について』くろしお出版
柳田征司(1978)「「ドウ」(如何)の成立」『国語と国文学』55-5
吉井健(1993)「国語副詞の史的研究—「とても」の語史—」『文林』27
渡辺実(2001)『さすが!日本語』筑摩書房

(いむ じょん 大学院人文社会系研究科 博士課程5年)